

1980年代以降のタイにおける華人社団の新たな発展

潘少紅・著（中国廈門市華僑博物院研究部副研究員）

王艷梅・訳（廈門大学嘉庚学院日本語科講師）

はじめに

20世紀の80年代以降、タイ社会は大きく変化した。タイの政治における民主化の進展は絶えず波乱と苦難にさらされてきた。1991年に起きた軍事政変、1992年の軍人の政治介入事件ののち、民主化政治はタイにおいて漸進的な発展をみた。しかし、2006年9月、タイ軍人がクーデターによってタクシン政府を打倒し、これをきっかけに、タイの政局は大混乱に陥った。2010年5月、反独裁民主連盟（UDD）支持者の赤シャツと政府軍との間に流血衝突が起こった。一方で、タイ経済は目覚ましい成長を続け、1997年の金融危機により一旦衰退したとはいえ、1999年から再び回復し始め、2007年の一人当たりのGDPは3700ドルにも達した。それと同時に華人の経済力も強くなり、このような時代の変遷の中で華僑社会は大きく変化してきたのである。

研究者の推測によると、2007年時点でタイ社会には650万人の華人があり、ここ20年間に中国からタイに移住した凡そ40万～50万人を加えると、約700万人になる¹。1975年7月1日、中国がタイと国交を樹立してからは、タイ政府によって帰化条件が緩和され、華僑のタイ国籍取得は容易になったばかりか、華人には選挙権と被選挙権を含める公民権も与えられた。かつてのタイ華僑は、政治上の地位が引き上げられたことによって、タイ公民へと変わっていったのである。

華人が組織する社团は、華人社会の主要な構成要素である。タイにある華人社団は数が多く、その中には大規模な社团も少なくない。本稿では、過去30年間のタイ華人社

¹ 庄国土：〈東南亜華僑華人数量的新估算〉《廈門大学学报》2009年第3期。

団の発展を調査整理し、タイの華人社団が新たな時期においてどのような特徴と発展趨勢を示しているかをまとめた。

一、30年来のタイにおける華人社団の発展

20世紀の80年代以降、タイの華人社団は新しい発展の様相を示してきた。タイの華人社団の数は前より急速に増加した。タイで発行されている中国語新聞「世界日報」に現れた華人社団について、台湾の研究者が1992年1月から8月までの数を統計した結果、889の団（39校の華人学校を含む）が存在していることが分かった²。筆者は、タイの団が出版した刊行物の特集号や資料及び華人新聞をもとに、1271の一般団団法人の名称（付録参照）を一覧表にまとめたが、実際の数はいくらか多いと推測できる。伝統的な地縁、血縁、慈善宗教による結びつき以外にも文化、学術、校友会と専門協会などの団が大いに発展した。前期に比べ、新しくできた団の活動は社会福祉、教育文化、レジャー・娯楽、同窓会、コミュニティサービス、学術研究などの分野に及んでいる。

1. 地縁型団

地縁型同郷団は昔から華人社団の重要な組織である。1996年、雲南省を原籍とする華人によってタイ雲南会館が設立された。この時点で、タイにいる九属華人はそれぞれ潮州会館、客属総会、広肇会館、福建会館、台湾会館、海南会館、江浙会館、広西会館、雲南会館といった地縁型団に属していた。地縁型団は原籍の省、市、県ごとに設立されるほか、その下位では町村同郷会も生まれた。原籍所在の県、郷を範囲とし、創立された地縁型団が続出した。原籍が潮汕管轄の各県である潮陽、大埔、揭陽、普寧、澄海、恵来、豊順、饒平の華人は県レベルの同郷会を八つ設立した。もっと小さな行政単位である郷を元に作られた同郷団も少なくない。例をあげれば、原籍が埭墜、潮陽玉峡溪尾、梅県松口郷、普寧白沙隴郷などの華人は郷レベルの同郷会を創立した。

タイにおける住居地を範囲とする地縁型団も、70～80年代に次々と現れた。分布から見れば、タイの各府、または府以下の県にまで広がっている。例えば、普寧同郷会の場合、既にタイの22府・県において支部や連絡所を設置し、東北部、南部、チャオ

² 李道緝：〈泰国華人社団及文化活動〉、載朱滋源主編：《東南亞華人社団文化活動之研究》、（台北）文化復興運動總會 1994年版、第220頁。

プラヤ川の上流と下流、及び東西海岸の広大な領域に点在している。居住地をもとに設立した同郷社団の続出は、タイにおける華人の人間関係の幅が広げられ、華人のアイデンティティが変化したことを表している。

2. 血縁型社団

第二次世界大戦後、特に 60 年代以後、新しい歴史条件下で、タイの華人血縁型社団が多数増加した。不完全な統計によると、1959 年から 1975 年までの 16 年間、47 の同姓連宗あるいは異姓連宗の社団が設立されたという。1972 年 12 月、各宗親総会が共同で、タイにある宗親社団をリードする組織の在タイ華人各姓宗親総会を創立した。今日まで既に 73 の同姓あるいは異姓連合の宗親総会が作られている。異姓連合の宗親会のなかには、劉・関・張・趙の 4 姓で作ったタイ竜岡親義総会、洪・江・翁・方・龔・汪の 6 姓で作ったタイ六桂堂宗親総会、タイ蕭葉鍾氏宗親総会、何盧江堂宗親総会などがある。劉・関・張・趙は異姓であるが、「三国志」では、劉備、関公、張飛、趙雲が出会い義兄弟の契りを結んだことから、宗親会の実力を拡大するため、劉・関・張・趙の四姓華僑社団が創立された。この宗親会はメンバーから見ても規模から見ても、単一姓で成立した劉氏宗親総会や関氏宗親会、張氏宗親会、趙氏宗親会より壮大なのである。

同姓華人が宗親総会を設立するとともに、原籍が特定の郷・村を中心とする小さな宗親社団も次々と設立された。これらの社団は正式に登録していない上、活動も多くないため、その数を統計しようと思っても、完全にはできない。成立年月日から見れば、中には宗親総会よりも早い時期に誕生したものがある。例えば、タイ張氏宗親総会は 1978 年になってから設立されたのであったが、その理由は「張姓宗族は人が多く、各県や郷の族親会や家族会がそれぞれ勝手に振舞っていたために、宗親総会の存在が必要視されなかったためだった。」³

地域から見れば、同姓宗親会の規模はさまざまで、大きいのも小さいのもある。幾つかの県を範囲とする海南梁姓華僑が作った「海南梁家社」もあれば、一つの県を範囲とする梅県李氏宗親会、梅県張氏宗親会などもある。もっと小さいものもある。潮安、潮陽、揭陽、普寧などの県にある幾つかの郷で設立した旅泰泥溝郷張氏宗親会は、原籍が普寧泥溝郷の華僑を中心にできた小型の宗親社団である⁴。旅泰急水仙美郷李氏宗親会は原

³ 《泰華各姓宗親総会聯誼会成立廿二周年記念特刊》、バンコク：泰華各姓宗親総会聯誼会、1992 年。

⁴ 《旅暹普寧同郷会三十八周年会慶暨新址落成並東公学揭幕祈念特刊》、旅暹普寧同郷会出版、1985 年、第 19 頁。

籍が潮安仙美郷を中心に作られたのである⁵。閩粵などの地域では、同姓村、即ち一村同姓の村が多く存在している。タイの華人社団には同じ村から同姓の会員からなる小型同郷会がある。それは小型宗親社団でもある。例えば、旅暹古巷同郷会は原籍が潮安古巷郷の華僑によって創立されたものであり、古巷郷の唯一の姓は陳であるため、古巷同郷会は陳姓華僑の宗親社団といてよい。その他、「潮陽玉峽溪尾同郷会」は周姓華僑の宗親社団で、旅泰潮陽簡朴李氏同郷会は潮陽簡朴李氏の宗親社団に違いないと思う。

歴史上の共同の祖先によって結び付けられた宗親社団もある。旅泰林氏翰学総会、旅泰西河林氏南山公総会などはその例である。しかし、それらの子孫はほぼ同じ地域や隣接するいくつかの地域に住んでいるため、事実上地域をもとにする社団と見てもいいであろう。例えば、旅泰林氏翰学総会のメンバーは原籍が潮州揭陽金坑郷の華僑で、翰学公は郷の林姓の宋代 33 世の祖先である。全国的な宗親総会のほか、特定居住地を中心にできた宗親社団も少なくない。その分布から見れば、タイの各府、さらに府の下位の県を中心にできた社団もある。合艾にある鍾姓、林姓、羅姓宗親会はその例として挙げられる。タイの各府に位置する宗親社団の中には、全国的宗親総会が当地において設置した連絡所に当たるものもある。

3. 業縁型社団

1959 年、出版の「タイ華僑誌」に収録された業縁社団は 39 であった⁶。業種からすれば、1973 年の「タイ中華総商會會員名簿」という本に収録された業縁社団は 23 の業種、即ち、トウモロコシ土産業、皮革産業、製材業（木材産業）、土産販売会社（雑貨商）、木材加工業（家具製造）、五金（鉄器）、米商、タバコ産業（紙巻タバコ）、茶商、建築業、金玉（金銀器加工と宝石）、酒商、ガーゼ・麻袋製造業、製菓業、裁縫業、製糖業、コーヒー、金融保険、質屋、印刷、貿易（輸出入商）、靴製造業、時計産業である⁷。1993 年のある中タイ文対照社団名簿「タイ商業公會名簿」に上げられた 97 社団では、タイ米商會、タイオーストラリア商會のような会員の国籍をはっきり示した 19 社団及び香港商會のほか、残った 77 社団のすべてには華人の参加者がいた⁸。1959 年の 39

⁵ 《旅暹潮安同郷會成立六十周年記念特刊》旅暹潮安同郷會出版 1987 年 第 308 頁。

⁶ 華僑誌編纂委員會編《泰國華僑誌》、台北：華僑誌編纂委員會 1959 年 第 117-119 頁。

⁷ 《泰國中華總商會會員名冊》、バンコク：泰國中華總商會 1973 年。

⁸ 《泰國商業公會名録》、出版社不詳、1993 年。

社団と比べ、数が大きく増加した。生産方式や組織形式の違いで、タイ華業縁社団には総合商会と専門的同業社団がある。

新興産業の場合、産業のイメージアップや業務展開のために、関連法令に従って社団を創立することは珍しくない。このような社団は、同業者の力を集中させ、同業の利益を獲得して、同業の経済発展に大きな役割を果たした。社員構成からすれば、新型業縁社団のメンバーは全員が華人経営者ではないため、私たちはそれを混合型同業社団として受け止めていだろう。

人工造花公会は人工造花業の発展につれて創立されたものである。海南籍の華僑である欧宗清は、タイ市場で販売されている人工造花が理想的なものではなく、海外生産の人工造花のほうが質といい形といい、タイ生産の人工造花より優れていることに気づき、海外から人工造花の材料を輸入してタイの人工造花生産者に紹介した。そして、タイ人工造花公会の設立を促進し、富来ピグメント紙で人工造花を作る技術人材を育成した。タイ人工造花公会の創立は富来ピグメント紙の販路を広げただけでなく、人工造花生産への大規模な進出のための経済的基盤を固め、しかも人工造花の中堅人材を多数養成した⁹。

台湾と大陸からタイに移住した中国人経営者は、できるだけ共通点を求めて各種の社団を作った。台商はタイ当地での投資、経営の歴史が相対的に長く、2001年9月までに台商タイへの投資総件数は累計1592件、投資総額は104億9018万ドルもあった¹⁰。1992年5月、台商はタイ台湾商会を創立し、会所はバンコクに設置された。永久的の会所もあり、現在では450社の会員がある。タイ台商総会の設立後、他地域の台商もそれぞれ協会を設立した。バンコク、アソーク、プラカーン、ラッカバン、トンブリ、チャチューンサオ、北区、ギムリ、チョンブリ、タイ南地区、バンポン地区などの協会が設立されたのは90年代の初期または中期であった¹¹。

タイ華人青年商会は大陸からの新移住者によって設立された総合的商会である。新移住者を集めるため、2000年7月、李桂雄をはじめとする新移住者は「華人青年商会」を創立した。青年商会は現在500-600人のメンバーを持ち、皆中国のチベットと新疆以

⁹ 鐘彪〈“人造花大王”欧宗清〉、馮子平《走向世界的海南人》、北京：中国華僑出版社、1992年、第267-268頁。

¹⁰ 曹淑瑤〈戦後台湾与泰国的経貿発展〉、載古鴻廷・庄国土編《当代華商経貿網絡—海峽兩岸与東南亞》、台北：稻郷出版社、2003年、第290頁。

¹¹ 顧長永《台商在東南亞—台湾移民海外的第三波》、高雄：麗文文化事業有限公司、2001年、第95頁。

外の地域から来た人で、中では、潮籍新移住者は全体の約 80%を占める。従事する業種は加工製造、貿易、金融、建築、不動産、宝飾、医療、保険、電子、教育、科学技術通信、旅行、飲食サービスなどの分野である¹²。2008年9月、タイ江浙滬総商会の設立が許可され、中国の浙江省、江蘇省と上海市からタイに来た中国人の数は一万人を超えた。かれらは主に、プロジェクトの下請けをしたり、投資によって工場を作り、江浙滬及び中国の他の地域から機械・電気製品を輸入してタイ市場で販売する、といった仕事をしている。メーカーの大部分は90年代初期にタイに移住してきたため、総商会の設立は江浙滬とその他の地域の旅暹華僑を応援し団結するのに大きな役割を果たしている。総商会のメンバーのほとんどは百年近くの歴史を持つタイ江浙会館理事会の出身で、現在の会長の銭湘麟はタイ江浙会館の理事長を勤めている¹³。タイ広肇商会は2009年1月5日、タイ内政部に登録し、設立が認定された。2009年2月第一回全体会員大会を行った。鄭錦栄が商会執行委員会の最初の会長となった。広肇商会は広肇出身の若者を主として設立された社団で、新世代もいれば新移住者もいる。上場企業の総裁やCEOもいれば中小企業及びSMEの社長や商人もいる。ほとんどの人は博士、修士あるいは学士の学位を所有している。皆は「商をもって友を作り、友をもって商を広げる」というのを宗旨とし、お互いに学びあい、お互いに励みあい、お互いに前進し、タイ・中両国の経済貿易の発展に尽力している¹⁴。

地縁によって結ばれた業縁社団、例えばタイ海南商会は、タイで商売をする海南人が経済貿易活動の展開や故郷との経済貿易交流のために、王統宇、呉乾煌らの呼びかけで創立したのである。馮裕徳準備委員会が委員長に推薦され、1989年12月登録設立が認められた。このような業縁社団は鮮明な地縁の特徴を有する。地縁的要素はメンバー間の凝集力を維持するための手段であり、地縁を横に、業縁を縦に形作った社団ネットワークの目的は、同業の発展を促進することにある。1991年、タイの若い華人が創立した華商協会は、当初12人しかいなかったが、1997年には百人以上の会員が集まり、大部分は在タイ華人各界の若い人々である。タイ華工商経済の発展に伴って、各業界は細分化し、科学技術に関する研究を行う種々の専門学会がいずれ科学技術者の間で生まれるだろう。

¹² 泰国華人青年会ウェブサイト：<http://www.tycc.org/>。

¹³ 泰国江浙滬総商会ウェブサイト：<http://www.jzhtai.com>。

¹⁴ 泰国広肇商会ウェブサイト：<http://www.kcaot.org>。

4. 慈善宗教社団

在タイ華人慈善社団も大きな発展を遂げている。社団の数や規模は大幅に前期を超え、社会への影響も広がっている。在タイ華人慈善社団は種類が多く、有善堂、慈善病院、老人ホーム、児童養護施設、互助会、慈善院など、名称が多様化しているばかりでなく、設立の趣旨もそれぞれ異なっている。以下は慈善社団を慈善活動の内容と形式によって分類してみる。

もっぱら社会サービスや福祉慈善活動をする慈善社団。例えば、華僑互助会、義徳互助社、孔堤互助社、善徳互助会などである。華僑互助社は1958年に黄成、信明通などの華僑が人類互いに助け合い、互いに愛し合うという精神をもって組織した社団であり、1960年タイ政府に合法慈善機構と認定された。当社は「危機や困難を救い、孤児や身寄りのない老人を救済し、社会福祉や慈善事業を取り扱う。ただし、政治には関わらない」ことを目的としている¹⁵。社会問題の解決を自分の責任とする慈善社団も少なくない。例えば、無料診断、老人や孤児の救済を行う専門慈善社団などの慈善社団である。

タイの宗教的雰囲気の影響を受け、慈善社団のほとんどは宗教信仰と密接な関係を持っている。宗教社団の一部分は公開的かつ合法的な地位を獲得するため、慈善社団の道を選んで宗教と慈善を結びつけ、無料で健康診断や薬品の供給、死者の棺の用意や葬儀の手伝い、災害救援などの福祉事業に携わる。このような社団は、宗教を母体とし、弟子入りの儀式もあるが、しかし、社会福祉事業がその主な活動内容であり、宗教形態と慈善方式を兼ねているため、慈善社団の一種とみなすべきと考える。世覚善堂は、紫微閣を設け、諸仏を祀り、タイ徳教総会のメンバーの一つでありながら、僑社のなかの有名な慈善社団でもある。それは1961年に認定された慈善機構で、宗教活動のほか、社会慈善活動を活動の主な内容としている。無料診療所や山荘などを設置している。「徳教を説明し宣伝、道徳精神を唱え、人生を浄化する」ことが目的とされる。その他、以下のような規則が定められている。(1) 災害・死者救済。洪水災害や火災及び他の災害を救援する。(2) 病院や無料診療所を設け、無料診断や薬の提供を取り扱う。(3) 山荘を設け、墓をたて、無料で貧しい死者を埋葬する。(4) 教育機構を援助する。学校を開設し、貧しい学童を支援する¹⁶。

タイ徳教会は1979年12月タイ徳教慈善総会を創立した。2008年時点において、徳教慈善総会はタイで77の会員閣をもち、その中で「善堂」と命名されたのは22か所あ

¹⁵ 《泰国華僑互助社成立三十二周年暨華僑婦女養老院新院落成揭幕特刊》、泰国華僑互助社出版、1994年。

¹⁶ 《泰国世覚善堂成立三十六周年記念特刊》、泰国世覚善堂出版、1997年、第314頁。

った。博他崙崇徳善堂紫蟠閣、彭世洛崇成善堂徳教紫崇閣などである。「互助社」、「慈善社団」、「徳堂」、「安堂」、「慈善院」などと命名されたのは11で、烏汶慈善機構互助社紫聃閣、莫拉限慈善機構紫穆閣、三山慈善院紫山閣などである。徳教慈善総会の宗旨は、政治に関与しないという原則であり、宗教に関する規定以外、老人ホーム、病院、学校を創立し、公益事業を行い、文化の発展を促進し、慈善救済を施すと明記してある¹⁷。それから、明系善壇社団の「タイ仏教衆明慈善協会」は2005年まで、タイ各地に友壇を50ももつようになった。蓬萊道閣が30軒あり、1973年タイ蓬萊連閣総会を設立した。

最後に、慈善社団は発展するにつれて、自分たちなりの宗教信仰を確立し、宗教の旗のもとに信者を集め、安定した信者グループを維持している。例を挙げれば、タイ華僑互助社は1958年に創立された後、経營業績があまり芳しくなかったため、1962年に紫純閣を設け、徳教の四人の師尊を祀り、タイ徳教総会のメンバーになった。天華病院は歴史の長い慈善病院であり、1957年に礼堂を設置し、観音菩薩を祀った¹⁸。天華病院では、薬の贈与は観音菩薩の一切衆生を救助する精神と同じであるため、観音菩薩を祀ることは信者の礼拝や善縁を結ぶのに良いと考えている。つまり社団の維持に必要な経済的供給を確保するためだということが明らかである。というわけで、これらの社団においては、宗教形態と慈善活動はお互いに表裏の関係にあり、別々に論ずることはできないのである。

5. 文化、学術、教育、レジャー・娯楽などの社団

文化、教育、学術、レジャー・娯楽などをもとに設立された社団は次々と現れている。これらの社団は華人の注目を引き付け、参加を促している。華僑・華人の団結、華語教育の発展、中華文化の伝承などの面において、独特で、積極的な役割を果たしている。僑社の中では、華人を団結する役割を果たしている。

華語学校を主とする教育文化機構は、タイ華僑・華人と団結するのに積極的かつ独特な役割を果たしていて、華僑・華人の人間関係作りの重要な場である。在タイ華人教育基金会は1990年9月にタイ政府の認定で正式に成立した華人文化機構である。1996年、タイの華語を教授する120校あまりの民校のうち、約70校が、華人文化教育社団であ

¹⁷ 《泰国徳教慈善総会章程》、バンコク：泰国徳教慈善総会、2002年、第16頁。

¹⁸ 《天華医院成立八十周年記念特刊》、バンコク：天華医院出版、1984年、第9頁。

るタイ華語教授協会に参加した。タイにおける中国人留学生同窓会は、タイ立法院議員の林素蒙、教育部庁長の鄭針能など、タイと中国との文化交流に熱心な人々の提案で1991年に創立されたのである。同窓会はタイ中両国の文化交流と教育事業の合作及び両国人民の友情を深めることを目的としている。2002年、中国に留学するタイ留学生校友総会が設立され、校友総会に参加したのは清華大学、北京大学、暨南大学、アモイ大学、中山大学、香港大学などの中国の大学にあるタイ校友会であった。

女性交流の面では、タイ女性連合会が、1987年9月タイ潮州会館、客属総会と福建、広肇、台湾、海南などの会館の女性科主任及び在タイ華人女性界の有名人によって作られた。専門家社団では、華語教師の組織としてのタイ華語教師公会が1984年に創立された。華語創作に取り組んでいる作家たちも1983年に自分たちの社団である在タイ華人創作人協会を創設した。1992年には在タイ華人文芸作家協会が創設された。在タイ華人通信記者協会も1992年に設立されたが、メンバーはタイ各地のアマチュア通信記者であって、本業は企業家、商人、華僑社団の幹事、そして教師を勤めているメンバーばかりであった。在タイ華商専門研修員協会は1993年12月バンコクにおいて創立された。協会は専門研修員を団結し、一緒に学術や専門問題を検討し、各々の専門特技を発揮し、協会の発展を促すことを宗旨と定めている。その他、学会や趣味のための社団なども数多くできている。これらの社団は知識、情緒、趣味といった精神的満足を満たすために創設されたのである。その例としてタイ太極拳総会、宋艾歌楽世友太極拳学会、タイ客家人文芸協会、タイ弘易学会などが挙げられる。在タイ華人詩学社は1977年に設立された。タイ研究学会はタイ問題を研究する華人学者によって1984年に作られた学術社団である。タイ中學會は1993年に成立し、中・タイ研究を行っている学者の社団である¹⁹。

二、三十年来の在タイ華人社団の変化

歴史の進展から見ると、タイの各界と政府は大体において温和な同化政策を採用しているため、華人は比較的うまく現地の社会に融合することができ、民族関係は良好である。タイにおける華人はタイ語を話し、タイ族の祝日や風俗を受け入れ、文化上もタイの文化を認め、言葉の中にタイへの衷心的な愛情が溢れている。ある華人女性は「移民当時、私の祖先は他の東南アジアの国ではなく、タイを選んでよかった。」と語ってい

¹⁹ 《泰中学刊—泰中學會十周年記念刊》、バンコク：泰中學會出版、2004年、第129頁。

る²⁰。それと同時に、タイの華人も華人の信仰、風俗習慣、伝統的な規範等を忠実に守っている。在タイ華人社団は相変わらず中華文化の特質を保持しているが、団体数の増加にしたがって、団体の機能も自然に変わってきている。

1. 在タイ華人社団による社会に公益的なサービス及び施設の提供

在タイ華人社団は設立当初から、友情、団結互助、生存の需要のために、種々の社会事業を起こしてきた。例えば葬礼、医療、教育等、華僑を苦境から抜け出させるための事業発展にサービスを提供した。過去三十年にわたり、団体は各種の社会サービス、教育文化、医療衛生、社会福祉等の活動分野において更なる多元化をとげ、サービスの対象も華人にとどまらず、タイ社会の群衆にまで拡大されるようになった。在タイ華人社団による大規模の救済活動は種族と信仰を問わず、社会的弱者に対して多方面の援助を提供している。

地縁性団体より提供されるサービスは華人社会の生、老、病、死、就職、教育、医療等の各方面に及んでいる。また、義山（華僑墓地）、学校、医療、体育等の各成員の生活に緊密する公共施設を設立する。広肇会館にはもともと二か所の墓地があり、1995年に1526万バーツで土地を購入し、山荘（墓地）を拡張した²¹。地縁団体は教育を重視し、学校の創立、華文教育の提唱、教育人材の育成等の面に力を入れている。潮州会館は1963年にタイ文学校の弥博中学を設立し、1994年時点で当校の学生数は1022名に達した。学校開校以来、業績が優秀であるため、1994年に教育部の承認を得て、国立学校と同等な地位を獲得した²²。中華文化を広げ、華文教育を推進、商業貿易の人材を育成するため、1994年に潮州会館は中等職業専門学校である「タイ華国際文化学院」を創立した。この学校では、漢語及びタイ語を主とし、それに実用英語会話クラスも設けられている。1995年6月から1998年2月までトータル2384名の学生が教育を受けた。2000年、潮州会館は、普智学校の校内で潮州中学校を建設したが、教学ビルの礼堂、教員寮と学生寮、プールなど、現代化の教学施設も含め、予算額は1.2億バーツであった²³。

²⁰ 2008年4月タイ華人黄維敏女史へのインタビュー。

²¹ 《泰国広肇会館成立120周年記念特刊》、バンコク：泰国広肇会館出版、1997年、第55頁

²² 《泰国潮州会館成立六十周年記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館出版、1998年、第192頁。

²³ 《泰国潮州会館大57次常年会員大会会務報告書》、バンコク：泰国潮州会館、2000年、第55頁。

同郷組織も、各種の方法を通じて教育事業を推進する。よく見られる方法としては、奨学金基金の設立があげられる。澄海同郷会は、1973年から会員子女に対する奨学金の授与を始め、2001年時点で既に29回629万バーツ余りを授与した。奨学金を受けた学生は4053名であり、なかには博士、大学院生、医学学士に対する記念盾の授与、留学奨励金を獲得した者への奨励、大・中学生への奨学金の支給などが含まれていた。そして貧しい学生への救助金等の提供も行われた。奨学金の金額は年々増え、1998年に177名の学生に54万バーツ余りの奨励金が支給された²⁴。学生を奨励するほか、同郷組織は尊師重道（師を尊び、道を重んじる）、教育熱心の理念を貫くために、教師奨励基金を設け、中国とタイの教師の海外研修を援助する。1991年、華文教育を促進し、教師の福祉を高めるために、在タイ華人九属会館が「在タイ華人九属会館教師奨励基金会」を成立した。設立当時の基金総額は500万バーツ、1998年に基金総額が2079.6万バーツに増加した。基金会は毎年所得する利子を奨励金とし、華文授業のある学校に勤めている教職経験10年以上のタイ語教師に奨励金を授与する²⁵。

在タイ華人の各慈善団体の多くは全力を尽くして社会民衆にサービスを提供している。大型慈善団体、例えば華僑報徳善堂がその巨大な善信ネットを通じて、大量の人力や財力を集め、社会に貢献している。中小型の慈善団体も貧困救済、医療衛生、教育等の面において、できるかぎりさまざまな方法を通して社会の福祉に参加している。華僑報徳善堂は1976年に遠い地区に住んでいる住民のために、流動的な医療チームを成立し、サービスを提供した。1994年末までの18年間に、医療チームの往診は2342回を数え、治療拠点はタイの53府全体に及んでいた²⁶。災害に見舞われた民衆への救済は、華僑報徳善堂の経常的な仕事であった。1976年から1989年までの14年の間、救済を施した被災地の数は全部で1759もあり、18万8647名の被災者に約2209万バーツの義援金を寄付し、しかも大量の救援物資を提供した²⁷。1994年の1年間に144の被災地を救済し、12527名の火災の避難者に501万バーツ余りの義援金のほか、多額の義援金を寄付した²⁸。2004年12月26日インド洋の津波がタイ南部の6府を襲った際、華僑報徳善堂や蓬萊逍遙閣はタイ南部14府の慈善機構と連携して被災地への救援を行った。

²⁴ 《泰国澄海同郷会成立五十五周年記念特刊》、バンコク：泰国澄海同郷会、2002年、第92頁。

²⁵ 《泰国潮州会館成立六十周年記念特刊》、第145、146頁。

²⁶ (タイ)《中華日報》、1995年1月30日、第22版。

²⁷ 《華僑報徳善堂成立八十周年特刊》、バンコク：華僑報徳善堂、1991年、第55頁。

²⁸ (タイ)《中華日報》、1995年1月30日、第23版。

教育は慈善団体が社会に貢献する伝統的な分野の1つである。慈善団体は自ら教育機構を設立し、中学、小学、及び大学を開設する一方、社会上の各種の教育施設に金銭援助をした。80年代以後、報徳善堂による教育への投入はより一層強められた。1981年、報徳善堂の華僑学院創立申請がタイ政府大学部によって承認され、当学は土地、8階建ての校舎及び各種の教具設備の購入で5200万バーツを投入した。最初に開設したのは看護学科で、タイの医務看護の人材不足を充足させた。1989年に社会福祉学科を開設した²⁹。1990年に、報徳善堂の理事長鄭午樓は「華僑学院を大学に拡大しよう」という壮大な計画を提出し、1994年3月24日には、華僑崇聖大学として除幕式典を行うに至った。1995年7月、当大学の学生数は約4000名に達し、開設されている専攻は文学、商業、コンピューター、医療看護等があり、一定の規模のある総合性大学に成長した。華僑病院付属の助産学校から華僑学院及び現在の総合大学に至るまで、報徳善堂は民間組織として学校を開設し、社会民衆に教育のチャンスを与えた。これはタイの教育事業の発展にとっては非常に重要な意味があると考えられる。

社会の発展に伴い、社会問題も次第に多くなってきた。慈善団体の社会貢献に対する公衆からの要望が多くなり、各慈善団体はそれに応じて積極的に応対し、社会に必要な各種のサービスが生まれた。社会ニーズの全体から見ると、慈善団体は孤児の生活や教育、老人向けのサービスにおいて、民間の力で社会問題を解決する重要な役割を果たした。華僑婦人養老院は華僑互助社が老人向けのサービス問題を解決するために設立した慈善機構である。1967年、華僑互助社の董事会は養老院を建設して、身寄りのない老人を受け入れ、幸せな晩年を過ごさせようと決定した。1971年、80万バーツをかけた養老院が竣工した。華僑互助社の董事会では、華社現存の北欖養老院及び建設中の挽卿養老院はいずれも男性老人を受け入れる養老院であるのに対して、女性老人を受け入れる養老院がまだないと考え、当院を女性老人の養老院にすると決定した。華僑婦人養老院が設立されて以来、社会に注目され、喜んで経費を寄付する個人や団体が多かった。1992年度、当院を訪問、寄付する金額と冠婚葬祭の際の福利金が合わせて194万バーツ余りに達した³⁰。次第に増加する社会問題に対応するため、慈善団体は積極的にサービス分野を拡大し、社会必要性の各方面を包括する全方位・多層化という発展の特徴を現わすようになっていく。

²⁹ 《華僑報徳善堂成立八十周年記念特刊》、第170—171頁。

³⁰ 《泰国華僑互助社成立三十二周年暨華僑婦女養老院新院落成揭幕特刊》、泰国華僑互助社出版、1994年、第158頁。

2、在タイ華人利益訴求ルートの多様化及び社団機能の変化

第二次世界大戦後、大量の新移民は中国からタイへ移り、タイの各地に分散し居住した。各集合地の各属の人口優勢を強めたと同時に、人口膨張でたくさんの社会問題を引き起こした。低階層華人は生存問題があれば、よく華人社団組織に救援を求めた。そういう場合、在タイ華人社団は治安維持、紛争調停等のような事務に介入して、僑社の代表としての役割を果たした。広い社会関係及び各種のルートを利用して解決の道を探し、各種の形でタイの政府側に当該社団グループの要求、意見を反映し、華僑同胞の各種問題の解決や代理をし、政府筋の重視を求めた。一方、タイ政府は各同郷組織を通して華人に政策を解釈し、宣伝した。1950年代初頭、タイ政府は外国華僑の隨身証手数料を大幅に値上げしたため、貧しい華僑のほとんどがこの高額の費用を支払うことができなくなって、総商会及び各華僑社団へ訴える人が20万人超に激増した。あげく1万人余りの華僑がデモ行進を行い、隨身証問題は華僑社を困惑させる一大問題になった。そこで、中華総商会は同郷組織と連携して大多数の華僑同胞の苦境を正面から受け止め、隨身証手数料を減らすようタイ政府に何回も文書を提出した。タイ政府は関連政策を貫くため、華僑社団を通して華僑社に法令及び政策を伝達し、説得工作を行った。

70年代中期以後、タイの華人は徐々に平等的な公民権を獲得し、政治的身分が実質的に変化した。華僑民衆から公民へと、政治認可による転向を遂げた。タイの法律も政策も華人を平等的に取り扱うことを明記した。タイの政治民主化の展開に伴い、華人は政治参加の意識が高まり、民主化要求の声も高くなり、タイにおける政治生活に積極的に関与し、自分の政治的意見を遠慮なく表明することができるようになった。各界政府の中華籍議員が輩出し、中華籍の総理大臣が現われ、タイ民族の一部分となった在タイ華人は既に政治上の平等権利を得たのである。若者の華人はタイに生まれ、タイ文教育を受け、政治的にもさらには文化的にもタイを認めるようになった。このような社会変革の下、タイの華人は従来とは違うルートと方法を利用して自己の利益を追求し、あるいは政党や非政府組織に参加することができるようになった。在タイ華人は、自身の利益をはかるにあたって、以前のようにタイ政府との交流を華僑社団に頼むというようなことがだんだん見られなくなった。在タイ華人社団は、華人とタイ政府との交流の潤滑油としての機能が徐々に弱体化し、その魅力は昔とは比べようがなくなった。以下は、若いタイ華人学生2名の社団に対する感覚的な見方である。

「私はタイ潮州会館の活動に参加したことがある。ほとんどの場合は皆でご飯を食べる集まりで、そのうち2、3回はカラオケにも行った覚えがある。このような活動は面白くない。華人の活動はとても騒々しくて、特に爆竹は好きじゃない。勿論、華僑たち

が集まることは友達を作るチャンスとしては悪くないと思う。だけど社団活動に参加する人のほとんどは年寄りだ。」³¹

「私の中学校は隆の近くにあり、そこに中華総商会があるのを知っているが、一体どんな組織であるか知らなかった。幼い頃、大峰の祖師廟へ拝みに行ったことがある。両親は3、4年ごとに参拝に行っていた。華僑報徳善堂がお金を出して華僑病院、華僑崇聖大学等を創立したのは知っている。その他の社団のことは知らないし、あってもなくても同じだと思う。両親と一緒に活動に参加する若者もいるようで、それは素晴らしいことだと思う。でも、社団や会館というものは私の生活にそんなに重要ではないと思う。」³²

3、在タイ華人結社需要の多元化

ここ30年の在タイ華人社団発展の状況から見れば、伝統的な社団形式、例えば、地縁、血縁、業縁社団がやはり華人結社の一番目の選択であり、そして社団の細分化現象が非常に目立つ。地縁社団の中には原籍地の省、市、県を地縁の境界線とする以外に、町村を境界線とすることもあり、例えば、1986年に成立された泰国潮安登栄郷親会、2005年に成立された泰国陽春信宜同郷人親会などがこれにあたる。また、居住地を地縁の境界線とすることも少なくなく、例えば、タイ福州会館における安馬立分会、羅勇分会、曾里分会、素叻分会、蘭萱南馬分会などである。血縁社団の細分化現象もまた注目されるべき点である。原籍地の町村を地域の境界線とする血縁社団は、例えば、旅泰潮安独樹郷莊氏家族会、旅泰果隴郷莊氏族親会、旅泰潮安崗湖郷黄氏家族会などで、小型の血縁社団が歴史上の同じ祖先を組織単位とするものは、例えば、旅泰林氏翰学公総会、旅泰西河林氏南山公総会、泰国秋嶼陳氏延華堂総会などである。特定の居住地を組織基礎とする親族組織もあり、例えば、合艾には鍾姓、林姓、羅姓の宗親会があり、泰北十七府暨清邁吳氏宗親聯誼会は2005年に成立した。

華人が参入している業界は多く、業縁社団は経済発展に対応してさらに緻密に分化し、たとえば、1989年に成立したタイ海南商会（泰国海南商会）、1992年に台湾商人によって設立されたタイ台湾商会（泰国台湾商会）などのように、鮮明な地縁的特徴をもつ業縁組織が現れてきた。ここ30年以来、タイには約40～50万人の中国の新しい移住民が

³¹ 2008年3月タイ華人学生である黄雲心女史へのインタビュー。

³² 同上。

来て、これらの新しい移住民の中にビジネス活動に従事する人が少なくなく、2000年に「タイ華人青年商会（泰国華人青年商会）」を設立した。2008年9月に泰国江浙滬総商會が成立し、そのメンバーはほとんど90年代初めにタイに移住した新しい移住民であった。2009年1月に泰国広肇商會は許可され、成立した。広肇は若者を主とする組織で、新しい世代もいれば、新しい移住民もいる。泰国華商聯誼會は1991年に成立して、そのメンバーは若いタイ華人の各業界の関係者である。

在タイ華人の新規社団は様々な由来と目的によって、例えば教育文化、學術研究、趣味、レジャー娯樂等を目的として、組織されたのである。例えば泰国華文教師公會、泰華寫作人協會（華人作家の社団）、泰華通訊記者協會、泰華詩學社、泰国研究學會などである。これらの現象の出現は、安定的な社会の中で、華人結社需要が多様化し、族群連係ネットワークが多様化したことを反映するものである。業縁性社団において、族群的意味を超えた状況がもはや明らかになった。メンバーの構成からみれば、業縁社団メンバーは華人経営者だけではなく、同業組合のほとんどはタイの当該業界の組織であるため、混合型の同業社団と見なすことができる。校友会組織のような新規組織も族群的意味を超えたことがより明らかになった。2002年にタイから中国の大学に留学する校友總會が成立したが、当該校友会には清華大学、北京大学、暨南大学、厦門大学、中山大学、香港大学等の中国の大学のタイ校友会があり、校友会に参加するメンバーは中国に留学したことのある華人を含むタイ人で、このようなメンバー構成はすでに族群的意味を超えているのである。

在タイ華人社団の種類は多いので、有効に連係するために、同類社団も散漫な連係ネットワークを構築した。例を挙げれば、地縁社団では、泰国九属會館の代表者月例食事會、潮州會館と十県同郷會による月例の代表者親睦食事會がある。業縁社団では、タイ中華總商會及び各業界の公會・聯誼會が親睦食事會を開き、2010年8月まですでに161回の會を催した。血縁社団においては、1972年にすでに最高の指導機構「泰華各姓氏宗親總會」を組織した。慈善宗教社団には、徳教紫閣のタイ徳教慈善總會、タイ蓮聯總會、仏教衆明慈善聯誼會、華僑報徳善堂及び各僑團報社聯合救災機構（各華僑社団新聞社の連合による災害救援機構）などがある。

周知のように、長期の自然同化を経て、在タイ華人は文化と血統面においてタイ社会に融けこむ程度がさらに高まり、タイのホスト社会との間の境界が曖昧になっている。にもかかわらず華人社団が絶えず増長する現象をいかに理解すればいいのだろうか？それは、在タイ華人の経済社会の発展を考慮に入れながら考察するべきである。70年代の初め、タイ政府は重点的に輸出向けの工業化政策を發展させることを唱えたため、80年代の後期には、タイの経済が早いスピードで成長し、華人がタイ政府の産業政策に指導・激励され、徐々に多くの新規経済分野と部門に進出するようになった。例えば、

金融、不動産、製造業、及びホテル業、観光業、娯楽業などの新規サービス業である。経済の急速な発展に従って、社会生活が益々複雑になり、需要のグラデーションが絶えず変化して、華人社団は新しい社会機能を付与された。つまり、華人発展の需要を満たし、各種の連絡チャンネルとネットワークを建設し、さらに、タイの大社会の経済、文化、科学技術の発展の中に参加し、タイの華人社団はこのような社会と経済構造の変化によって、大いに発展してきたわけである。

4、タイの華人社団における関係ネットワークの拡大：国際化趨勢

社団組織による連係は、華人が人間関係ネットワークを構築するにあたっての重要な形式の一つであり、社団活動を通して、メンバーの間の協力を強化し、有利なビジネスチャンスを探ることができる。過去 20 年来、国際的領域における世界市場が形成され、経済によって、異なる民族・国家・地域が緊密な有機体を構成している。海外華人社団活動の国際化の趨勢は日々に明らかになっている。社団は、世界各地にある社団を連係する紐帯となり、国内外の連係をつなぐ重要な媒介である。華人社団の国際化の趨勢の中にあって、地縁、血縁等の伝統的な連係紐帯は、ほかのものでは代替しえない機能を果たしている。タイの華人社団は、できるだけ連係紐帯を利用して、異なるレベルの多国籍連合活動に参加し、華人と世界各地の僑胞のためにコミュニケーション、交流、協力のための基盤を作る。

タイ潮州会館は、国際潮団聯誼会が行う年会に積極的に参加している。1981年8月、マレーシア潮州公会連合会は、46周年記念大会で“東南アジア潮団聯誼座談会”を開いた。シンガポール、香港、インドネシアなどの代表団が座談会に参加したが、タイ潮州会館は鄭俊英を団長とする12人の代表団を派遣した。座談会において、鄭俊英は主席に推薦され、その挨拶では、潮人が緊密に連絡するべきと唱え、各区域の経済の繁栄を促進するために、工商貿易における付き合いを強化することが最も大切であると述べた。会議は2年ごとに世界各地で国際潮団聯誼大会を主催することを決めた³³。1981年から2001年にかけて、国際潮団聯誼年会が、香港、タイ、マレーシア、シンガポール、アモイ、パリ、アメリカのサンノゼ、香港、汕頭、タイ、北京等で相次いで開催され、タイ潮州会館はいずれも代表を派遣し、各回の年会に参加したほか、1983年と1999年にそれぞれ第2回と第10回の国際潮団親睦年会を主催した。1983年にバンコクで主催した第2回の国際潮団聯誼年会は、出席代表がアメリカ、香港、マレーシア、シンガポール、イギリス、カナダ等の12地区か

³³ 《泰国潮州会館成立四十五周年記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館、1983年。

ら参加し、参加者総数は1042人であった³⁴。1999年に、タイ潮州会館がパタヤで主催した第10回国際潮団聯誼年会は、参加する国家または地区が60以上もあり、約2700人以上の参加者が集まった³⁵。国際会議への参加によって、潮人とその他の国家、地区の華僑との関係がさらに緊密化するとともに、タイの潮州商人はこのチャンスを利用して製品を売りさばき、国際ビジネスチャンスを開拓し、潮州会館は自らの役割を發揮する空間を拡大した。在タイ福州籍華人が国際的な社団活動に参加した経験は、この福州籍華人によるタイの福州十邑同郷会(泰国福州十邑同郷会)の成立を促した。1990年5月にシンガポール福州会館及び福州系の各社団が連合主催し、マレーシア福州社団聯合が後援した第一回国際福州十邑同郷大会に、タイ福建会館は誘いに応じ、社団を作って、大会に出席した。翌年5月には、バンコクでタイ福州十邑同郷会を成立した³⁶。1996年12月、タイ福州十邑同郷会はバンコクで第4回の世界福州十邑同郷総会を開催した。

タイの華人社団のうちで最も影響力のある業縁社団であるタイ中華総商会は、タイの華商と世界各地の華僑社団を連結するという面において重要な枢軸紐帯機能を發揮した。タイの中華総商会は世界華商大会の成立及び運営に積極的に参与した。1995年12月に、総商會が新しく建てられた37階建ての商會ビルで第三回の世界中華商人大會が行われた。

タイの各華人の宗親組織は、1960年から次第にその他の国家の宗親組織と連係を構築するようになった。特に80年代以降、各宗親組織が連合し、国際化する趨勢が一層明らかになり、国際的な聯誼会又は懇親大会が順番に世界各地で行われた。世界各地の華人宗親間の交流を強め、共同の發展を図ることはすでに宗親組織の活動内容の一つとなったが、これは宗親組織が進んで社会發展に適應した結果である。タイの海南林氏祖廟は、シンガポール・マレーシアを中心とする林氏の宗親と強い連係を建てている。70年代末より、海南林氏祖廟は次第に海外宗親組織と連携し、海南林氏は同じく海南林氏である関係を利用して、シンガポール、マレーシアを中心とする宗親と連携した。1979年12月にシンガポールの瓊崖林氏公會の新しいビルの竣工除幕式及び成立42周年記念會が開催され、海南林氏の祖廟派の50人以上の代表團が式典に出席した。この活動において、海南林氏宗祠はシンガポール瓊崖林氏公會との連係を固めただけでなく、且つシンガポール、マレーシア、タイとの3カ国の海南林氏の宗族の人は話し合って、3カ国の宗親を集め、感情をつなぎ、經驗を交流し、同郷感情を分かち合うように、毎年回り持ちで宗親聯誼会を行うことを決めた。これによって、シンガポール、マレーシア、

³⁴ 《泰国潮州会館成立五十周年記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館出版、1988年、第12頁。

³⁵ 《泰国潮州会館第五十七次常年會員大會會務報告書》、バンコク：泰国潮州会館出版、2000年、第34頁。

³⁶ 《泰国福建会館成立八十周年記念特刊》、バンコク：泰国福建会館、1991年、第279頁。

タイ3カ国の海南林氏の華僑の間には信頼関係が結ばれた。1981年4月にマレーシア瓊崖林氏公会とスランゴール長林別荘（注：海南林氏の宗親会）とが共同で、記念行事を行うとともに、第一回目のシンガポール、マレーシア、タイの宗親聯誼会も主催した。海南林氏祖廟派の代表団が出席したばかりでなく、理事長は個人の名義でマレーシア瓊崖林氏同業組合に奨学金・補助金として6万バーツを寄付した。1983年3月に海南林氏祖廟はシンガポール、マレーシア、タイの林氏宗親第三回の連合交歓会を主催した。招請を受けて儀式に参加するシンガポール・マレーシアの宗親は171名で、今回の会議において、シンガポール、マレーシアの海南林氏宗親は海南林氏宗祠の経費と宗祠（＝祖廟）建設基金を計88万バーツ以上寄付した³⁷。シンガポール、マレーシア海南宗親との相互関係を打ち建てたほか、海南林氏宗祠はさらに1981年11月に世界的宗親組織である世界林氏宗親総会に加わった。

5、在タイ華人社団のタイ中におけるコミュニケーション機能

1978年以来、中国大陸の発展の主軸が改革開放と経済建設に転換したため、海外華人と中国の関係はこれまでになく緊密になってきた。中国とタイとの経済、文化の往来のなかで、在タイ華人社団はかなり重要なコミュニケーション・連系の役割を果たした。在タイ華人社団は考察団を率いて、中国へ見物や交流に出かけ、現地の経済建設状況を考察し、理想の投資プロジェクトを探した。潮州会館及び各県の同郷会は1978年に金崇儒を団長とする訪中団を組織したが、これは新中国成立以来、潮州会館及び十県の同郷会が行ったはじめての帰国考察であった。潮汕家郷の人口、経済と建設を考察した以外、訪華団がまた広州、北京、南京、常州、無錫、蘇州、上海、杭州、桂林等を回って、途中の各大都市の工商業と現代化の建設状況を考察した³⁸。考察団の活動を通して、在タイ華人は家郷の状況を把握することができた。それから、潮州会館は何回もグループを組織して、中国を訪問した。例えば1986年に潮州会館及び十県同郷会は共同で三つの代表団を組成して、計199人で中国へ見物訪問に来た。1987年に潮州会館は「タイ潮州会館企業家考察団」を率いて、広州、北京、南京及び潮汕家郷等を回った³⁹。訪華団の考察は在タイ華人の祖国への認識を深めると同時に、直接に中国・タイの間のビジネス貿易の往来を推進した。泰華九属会館は1992年に中国人民政治協商会、国務院

³⁷ 《泰国海南林氏宗祠》、泰国海南林氏宗祠出版、2002年、第140-141頁。

³⁸ 《泰国潮州会館成立四十周年暨新館落成揭幕記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館、1979年、第1-27頁。

³⁹ 《泰国潮州会館成立五十周年記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館、1988年、第16頁。

華僑弁公室の招請を受けて、初めて中国を訪問して、北京、済南、曲阜、杭州及び深圳経済特区等を考察した。1995年には九属会館のリーダーが社団を組織して、広西へ観光・考察に行った⁴⁰。1999年には九属会館のリーダーは社団を組織して、上海、揚州、無錫等を訪問した⁴¹。これらの訪問を通じて、また成員たちの実体験と帰タイ後の幅広いプレゼンテーションを通して、在タイ華人にさらに中国についての認識を深めさせ、中国とタイの間の経済貿易関係、企業投資と交流のインタラクションなどを推進した。

それと同時に、中国国内の都市はタイで普及宣伝を行ったが、これらの中国各地の代表団の中には華人家郷の県市から、又は例えば上海、四川、青島等からの考察団があった。例えば1994年の澄海、汕頭、潮陽等の代表団、1995年の汕頭市マスコミ代表団、潮陽市投資環境紹介会代表団、揭陽市経済考察団等、1996年の上海市政治協商、友好訪問団、1999年の四川省僑胞東南アジア考察団などである⁴²。これらの中国の訪問団は、大抵関連の同郷組織を訪問して華僑の状況を聞き、同郷組織がその中で接待の機能を果たした。

在タイ華人のほとんどは故郷を長年離れていたが、彼らの故郷に対する思いは浅くなく、故郷が危機に直面する時や各種類の自然災害に見舞われた時、タイ華人社団はいつもタイムリーに華人の募金活動の展開を働きかけ、罹災の同郷人を救い、公益事業の発展を促進して、故郷を応援してきた。1994年に中国華南六省で厳しい水害が発生した際、在タイ華人の各業界は米寄付災害救済活動を呼びかけた。泰華九属会館は連合して米を1万袋、タイ潮州会館及び各県同郷会は共同で3000袋寄付した。中に潮州会館は3260袋分担した。1995年に、雲南省麗江付近で地震が発生した際、九属会館は資金を30万バーツ寄付して、被災者を救済した。1998年に中国の揚子江流域と東北地区で大規模な洪水が発生した際、九属会館は連合して100万バーツ、潮州会館及び十県同郷会は150万バーツ寄付した⁴³。1999年、台湾の九二一大地震で、2000人以上が死亡、6000人以上が負傷、被災状況が厳しかった。被災者を救済するため、九属会館は連合して200万バーツ、潮州会館及び潮属十県同郷会は100万バーツ寄付した⁴⁴。

⁴⁰ 《泰国潮州会館成立六十周年記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館、1998年、第222頁。

⁴¹ 《泰国潮州会館第五十七次常年會員大会會務報告書》、バンコク：泰国潮州会館、2000年、第63、64頁。

⁴² 《泰国潮州会館成立六十周年記念特刊》、バンコク：泰国潮州会館、1998年、第266、267頁。

⁴³ 同上。

⁴⁴ 《泰国潮州会館第五十七次常年會員大会會務報告書》、第62頁。

6、在タイ華人社団の文化伝播における独特な機能

言うまでもなく、在タイ華人社団は依然として深い中華文化の特質を有しており、華人文化を伝え・発展させることが重要な関心事であり、それぞれの団体の重要な義務とされている。タイ華人はタイ文化の影響を受けるとともに、故郷の芝居への思いと愛好心から各種のアマチュア団体を作り、民族音楽、郷土芝居によって、当該団体の文化生活を豊かにし、同郷人の感情を深め、積極的に祖国の伝統文化と郷土芸術を発揚している。在タイ華人同郷組織は普通形式の豊富な団体活動を行い、例えば、火葬法会、将棋、民族音楽、芝居、灯籠謎（提灯祭り）、太極拳等である。その中に一部の活動が伝統的な中華文化、土地文化の色彩を持ち、これらの活動を通して、会員間のお互いの関係を強化することができ、知らないうちに中国の伝統文化や価値理念が伝えられ、会員たちの中華文化への認可を一定程度強化することを促している。ほとんどの在タイ華人の血縁団体は、巨資を調達して大型同姓大宗祠（同姓祖を祀る大型の祖廟）を建設している。その中の一部は規模が大きく、装飾は精緻で美しく、濃厚な中国古典建築の風格を持ち、タイ本土の建築物の風格とは異なるものである。文化の媒体としての宗祠は、その独特な語りかけで人々にタイ華人文化の趣を示しているのである。タイ華人は祖先を祀る活動を非常に重んじる。現に、多くの宗親団体は定期的に祭祀活動を行い、祭祀式は非常に盛大である。このような活動は各宗親に宗親団結、血縁相愛の伝統観念を伝えるのに役立つ。特に、新しく加わった先賢を記念する儀式は、さらに宗親活動の文化的意義と内的価値を充実させることになった。

三、おわりに：社会変遷と在タイ華人社団の発展とのインタラクション

タイの近代化のプロセスは19世紀末20世紀初のチュラロンコーン改革よりはじまり、経済建設、政治民主の面において一定の成績を挙げたが、プロセス全体はやはり遅い。1960年代以降には、タイの経済は次第に飛躍的發展を取得し、80年代以後は高度成長期に入り、次第に注目される近代化の業績を挙げた。タイの政治、経済及び社会価値観も絶えず進化・発展してきた。タイが伝統型から現代型へ転換する過程において、華僑組織である在タイ華人社団は、萌芽、形成、繁栄までの発展プロセスを経て形作られた。したがって、タイ大社会の発展という広い歴史背景から在タイ華人社団の作用と意義を理解する必要がある。

1、タイにおける社会矛盾緩和の側面における在タイ華人社団の機能

近代化のプロセスにおいて、タイの政治、経済、社会はすばやい発展ぶりを示したが、社会運営には多くのリスク要因があり、そのリスク要因と伴う一連の厳しい社会問題が存在していた。貧富の格差が大きくなったことや、旱魃、水害、火災など不可抗力的な自然災害による被害者救済の問題、社会的弱者問題、労使衝突問題などがあげられる。これらの社会問題は、政府だけでは解決できないため、民間の力としての在タイ華人社団はタイ政府の供給不足の公共サービスを提供して、社会問題の解決や社会発展の促進に取り組んでいる。

社会問題を解決するために、在タイ華人社団は連合し、力を合わせて、社会救済に力を入れている。1951年には、華僑報徳善堂と、在タイ華人の46の主要社団、及び中国語日刊紙各紙が、「在タイ華人連合災害救済機構」を組成して、知恵を出し、力を合わせて国内外の自然災害と人為的な災禍の慈善任務に励んだ。また、50年代の初めには、総商会聯合同郷会は華僑の隨身証の費用問題を解決するためにタイ政府に請求した。80年代以来、同種の社団の間では、定期的な聯誼会を常態化させ、九属会館のリーダーが月例会食会、総商会及び各業界の公会が聯誼会、そして慈善宗教社団の連合等が行われた。災害救援は慈善社団が最も多く従事する活動で、1994年中には、華僑報徳善堂は144箇所の被災地の12527人の火災被災者に、救援金を501万バーツ以上配分した⁴⁵。在タイ華人社団の社会救済は、すでに人種、宗教信仰を問わず、社会全体に対応している。一部の社団、例えば各種の慈善社団、婦人社団は、特に社会的弱者の利益に注目して、一連のサービスを趣旨とする活動を通して、社会矛盾の緩和、現代都市の発展を応援している。災害救済と慈善活動の中で、在タイ華人社団は災害救済や社会病態治療の責任を負っており、各種の社会問題と危機に直面した時に、華人社団がすばらしい緩和機能を果たせることを示したのである。

2、在タイ華人社団と在タイ華僑社団の変遷

1949年までは、タイ華僑は移住民のグループであり、流動性が高く、中国から移住してきた移住民が絶えずタイ華僑社団に加入していた。1946年～1947年の間、凡そ17万の中国の移住民がタイに来た。ほとんどの移住民は、生きるため、又は国内の戦乱を避けるためにタイに移住したので、タイのことには関心がなく、「旅人意識」が甚だしかった。1949年以降、タイ華人の家族構造は大きく変化した。新しい移住民の渡来を制限するために、タイ政府は1947年の年間の移住民の定額1万人から、1949年の年間

⁴⁵ (タイ)《中華日報》、1995年1月30日、第23版。

200人に大幅にダウンした。1949年中国では政権が交替し、国民党・共産党は台湾海峡を隔てて対峙し、ピブン政府は共産党を断然反対する政策をとり、中国からの移住風潮がほとんど絶たれた。この状態はタイ華人族群構造に深い影響を与え、華人人口構造が変化して、タイで生まれた華人人口が大幅に増加した。したがって、華人社団が移住民を主とする社会から、だんだん現地出生の華人を主とする社会に変わった。同時に政治の隔離で、タイ華僑は次第に「旅人意識」を放棄して、タイで根を生やそうと努力するようになった。80年代になると、タイの経済社会は穏やかな発展に入り、華人はタイの社会経済発展の中で、だんだん重要な役割を果たすようになった。政治において、タイ華人は新しい認可対象を確立し、タイを自分の祖国と忠誠の対象として、基本的に政治認可の転化を果たした。文化認可において、華人の信仰、風俗習慣、伝統規範を守る一方、若い世代の華人はその親世代とは文化観念が大きく異なり、文化の変遷の速度が速くなった。思想においても、若い世代はタイの文化の影響を受けて、言語上の障害がなくなった。

在タイ華人社団は、昔、有効に華僑の利益を保護することができたおかげで、かつて敵意の溢れたタイ社会で生存、発展し、そして適応できたのである。また、在タイ華人社団は華僑の子弟が中国文化教育が受けられるための経済保証を提供するとともに、同郷の就業にも援助などを提供した。さらに、在タイ華人社団は鮮明な民族特徴をもって、積極的に原籍国と緊密な関係を守っていた。1980年代以来の団体の形式から見れば、一部の団体組織は依然として華人の文化伝統を守っている。親族や同郷集団の親和力や華人の宗教信仰は団体メンバーを連結する紐の一つで、地縁型団体、血縁型団体、慈善宗教団体は特に発達している。地縁型団体の中で、総会の以外に、各地でまた分会、連絡所などのサブ機構がある。普寧華人は、組織としては総会旅暹普寧同郷会のほかに、タイ全国各地に多くの連絡所を設けている。タイ全国各地の多くの地区では連絡所を設けている。例えば呵叻普寧同郷会、合艾普寧同郷会、万仏歳普寧聯絡処等である。地縁型団体は原籍の県、市、省を組織範囲とすることがよく見られるが、村を組織範囲とするものもあり、例えば、旅泰潮陽高堂同郷人会、旅泰赤水郷郷親会、泰国澄海建陽郷聯誼会などである。血縁型団体の中では、各姓氏がそれぞれの姓氏総会を約73成立して、これをもとに、在タイ華人の各姓氏宗親総会聯誼会を組織して、原籍地の市、県、郷乃至村を組織範囲とする親族会も少なくなく、例えば、泰国揭陽古嶼陳氏家族会、旅泰揭陽河内郷王氏親族会等である。居住地を組織範囲とする氏名団体も現れ、例えば、碧瑤林氏宗親会、帕府林氏宗親会、彭世洛林氏宗親会等である。慈善宗教団体の中の三大宗教団体はそれぞれ「タイ仏教衆明慈善聯誼会」、「タイ蓬萊聯閣総会」と「タイ徳教慈善総会」である。明系には約50箇所の鸞堂があり、蓬萊閣系統には約30箇所の鸞堂があり、徳教会には77の成員閣がある。

社会需要が日々増えるに従い、異なる集団の各種の需要を満たすために、タイ華人も規模が異なる联谊会、互助会等の連係性、サービス性の草の根組織を組織した。又はコミュニティ公共サービス供給中の責任に注目して、タイ京三聘联谊会、新城互助社、タイ京友谊互助社等を結んだ。それから趣味をもとに成立されたものには、タイ太極拳總會、泰華書画盆景協會、泰華外丹功健康慈善總會等がある。これらの基礎組織は、同じ文化価値観を連結の紐としており、その他の伝統的な華人社団組織の状況と違って、構成と機能はもっと広く、しかも多様である。

在タイ華人社団の活動の特徴から見れば、団体の活動は華人の間の付き合い、援助、凝集に役立ち、華人メンバーに大きな人間関係のネットワークを編んでおり、これはある程度、華人家族意識を強化する役割を果たした。同郷の感情を激励・促進するために、普寧籍の華人は80年代より「全泰普寧郷親联谊会大会」を年に一回主催して、内地のサブ機構が巡回して主催している。2004年の大会は東北の烏汝普寧聯絡処に行われ、タイ全国各地の普寧籍団体など27の組織が参加し、参会者が800人にも達した⁴⁶。「全泰普寧郷親联谊会大会」において、会議に参加する総会リーダーは、普寧エンブレム標識のあるネクタイを締めていなかったせいで、各府の普寧分会のメンバーに指摘された。参加者は、総会リーダーはタイ全国普寧郷親のリーダーであり、みんなの模範にならないと述べた。このような活動は、団体メンバーの単純な親睦会だけではなく、まじめに対処しなければいけないことを表明した。

各種類の在タイ華人社団はほとんど華人伝統祝日の慶祝式を開催する。中国語の新聞には団体活動、例えば「泰国林氏宗祠が冬祭りを開催し、ナコーンパトム県長が自ら儀式を主催して、三千人の子孫が儀式に参加して、盛大な儀式が行われた」、「旅泰埔仔寨張氏族親会が元宵節を祝うために、联谊会を主催した」、「旅泰潮陽華瑶郷王氏族親会は春祭り式及び元宵節を祝う会を開催した」等を報道する。団体組織はこれらの活動を通して、華人の民族文化の特徴を絶えず強調している。故郷との連絡の密接程度は家族の認可の凝集力に影響を与える。タイで生まれた華人にとって、故郷は実際はその親世代の故郷で、団体は活動を組織する時に、原籍地の標識を協調する。例えば東北烏汝府で開催された「第二十回全タイ普寧郷親联谊会大会」では、中国語で書かれた幕・鉄嶺のエンブレムをかけて、同時に中国の国旗とタイの国旗を掲げて、大会が始まった時にはメンバーと一緒に「中華人民共和国国歌、国王賛歌、歌唱普寧」などの歌曲を歌った。

⁴⁶ (タイ)《星暹日報》、2005年1月5日。

60年代以降、タイ政府の人為的制限は次第に緩和され、華人はすばやくタイ人との幅広い関係を構築し、積極的に主流社会に融け込んだ。華人社団変遷の背景のもとで、大量の華人社団の存在は、重要な社会的、文化的機能を果たした。まず、華人社団は、華人たちの余暇や娯楽、思想感情の交流、理想と価値の実現のための重要な場所であり、また、社団はタイ華人の間のインタラクシヨンの機会を増やすことができる、タイ華人にとっての公共空間である。社団活動への参加を通して、知人の世界を作り、そこで、華人は有無を交流して、お互いに話し合い、助け合い、面倒を見合う。次に、在タイ華人社団の存在は華人文化の継承にとって有利である。若い華人が積極的にタイの主流社会に溶け込む中で、また、在タイ華人の家庭教育、学校教育が華人文化の伝承に与える影響が薄くなる中で、在タイ華人社団は華人が交流し合う場を作り、華人文化を伝播・継続する最高の媒体として、タイ華人にタイの主流社会を認めさせ、自分の民族特性を保留させた。これは族群の生活を維持する最も重要な保証である。

3、在タイ華人社団のタイ社会発展に対する影響

華僑が居留民から公民へと身分を転換するに従い、在タイ華人社団がタイ社会の成長に深い影響を与えた。在タイ華人社団は広く公益、救済事務に参加して、タイ人民全体の愛心、公德と人道精神を向上させることに積極的な働きをする。在タイ華人社団は社会にサービスを提供する時の重点は多少異なるが、しかし災害救済はずっと在タイ華人社団、特に慈善社団にとって最も基本、最も通常のサービス項目であり、旱魃、水害、火災或いはその他の災難、例えば飛行機事故、交通事故等の場合、水や薬、食糧、衣服、毛布を提供し、死者を救済する。2004年12月にタイの南部は津波災害を蒙って、在タイ華人の各社団は援助をして、共同で災害救援の奉仕を負担した。タイ南部14府の災害救済機構と連合して、遭難するタイの死亡者家族に3千バーツ寄付したほか、被災地で臨時食事場所を設けて、民衆と災害救助に参加するボランティアに無料で食品を提供した⁴⁷。在タイ華人社団の慈善義挙は被災者のためになっただけではなく、社会公德、人道精神の向上にも積極的な役割を果たした。

在タイ華人社団はタイ社会の調和の促進において、機能を発揮している。現代化の風潮において、タイ華人の経済的実力はかなり向上し、進んで社会組織を形成して、分散した力を集めて、より強い社会パワーを形成した。また、社会公益活動に従事することを自分のパワーを表示する舞台として、社会公共事務の管理において作用を發揮してい

⁴⁷ (タイ)《星暹日報》、2005年1月25日。

る。在タイ華人社団は組織化、法律化の形式で現れ、各種類の社会活動に参加しやすく、地域の境界線や血縁制限を破り、種族、宗教信仰を超え、社会の整合を促進する「推進器」の作用を発揮している。例えば、現在タイ華人はタイを認め、そして忠誠心を持って、自分がタイ人であることを光榮に思っている。その原因はさまざまであるが、華人社団の機能は無視できない。

在タイ華人社団はタイと中国及び世界各地の華人を繋げる「架け橋」である。タイにとって、華人文化はタイの多元文化の重要な構成部分であり、在タイ華人社団は百年の発展を経てすでにタイ文化資本の中の貴重な歴史資源になっている。血縁、地縁、宗教信仰と文化等をもとに創立された在タイ華人社団は、ここ数年来、多くの世界華人のネットワークに加入している。それは、在タイ華人企業が海外に進出して、国際商品市場と海外投資を開拓するのに便利なチャンネルを提供しただけではなく、各国華人資本がタイで投資するときにも利用可能な資源である。在タイ華人社団はタイの経済発展に大きな役割を果たしている。

付録：泰国華人社団名録

泰華地縁性社団（225）

国潮州会館	宋艾歌樂福建会館	北欖坡客家会館
泰国客家總會	宋艾歌樂潮州会館	北欖坡広肇会館
泰国広肇会館	艾歌樂客属会館	北欖坡潮安同鄉会
泰国海南会館	宋艾歌樂海南会館	北欖坡棉湖鄉親聯誼社
泰国福建会館	呵叻潮安同鄉会	泰国潮安同鄉会呵叻分会
泰国江浙会館	呵叻客家会館	泰国澄海同鄉会呵叻分会
泰国台湾会館	呵叻客家婦女会	泰国潮陽同鄉会呵叻分会
泰国雲南会館	呵叻海南同鄉会	暹羅揭陽会館呵叻聯絡处
泰国広西總會	泰国曼谷惠州会館	饒平同鄉会呵叻聯絡处
泰国潮安同鄉会	清邁普寧同鄉会	饒平同鄉会竜仔厝分会
泰国潮陽同鄉会	泰国清邁海南会館	泰南那汶福州会館（洛坤）
暹羅揭陽会館	清邁広肇同鄉会	泰国福州会館
旅暹普寧同鄉会	北欖坡広肇会館	泰南福建公会
泰国澄海同鄉会	合艾広肇会館	泰国福州会館安馬立分会
泰国大埔会館	合艾客家会館	泰国福州会館羅勇分会
泰国豊順会館	合艾梅州同鄉会	泰国福州会館曾里分会
泰国饒平同鄉会	素叻府潮州会館	泰国福州会館素叻分会
泰国惠来同鄉会	素叻海南会館	泰国福州会館蘭萱南馬分会
泰国興寧会館	素叻客家会館	素叻福建会館
泰国梅县会館	呵叻普寧同鄉会	董里福建会館
清邁潮州会館	合艾普寧同鄉会	普吉福建会館
清邁潮陽同鄉会	万仏羅普寧聯絡处	勿洞八桂堂（広西）
清邁揭陽同鄉会	南邦普寧聯絡处	勿洞広肇会館
清邁客属会館	佛丕普寧聯絡处	勿洞福建会館
清邁府海南同鄉会	坤敬普寧聯絡处	勿洞潮州会館
清邁広肇同鄉会	北欖坡普寧同鄉会	勿洞客家会館
泰国澄海同鄉会清邁分会	素叻普寧聯絡处	勿洞泰国広西会館

血緣性社團 (338)

泰華各姓宗親總會聯誼會	泰國許氏宗親總會	泰國彭氏宗親總會
泰國王氏宗親總會	泰國郭氏宗親總會	泰國馬氏宗親總會
泰國余氏宗親總會	泰國曾氏宗親總會	泰國高氏宗親總會
泰國呂氏宗親總會	泰國叶氏宗親總會	泰國方氏宗親總會
泰國田氏宗親總會	泰國鄒氏宗親總會	泰國胡氏宗親總會
泰國杜氏宗親總會	泰國溫氏宗親總會	泰國林氏宗親總會
泰國汪氏宗親總會	泰國楊氏宗親總會	泰國廖氏宗親總會
泰國沈氏宗親總會	泰國熊氏宗親總會	泰國李氏宗親總會
泰國巫氏宗親總會	泰國劉氏宗親總會	泰國鄭氏宗親總會
泰國周氏宗親總會	泰國鄧氏宗親總會	泰國吳氏宗親總會
泰國范氏宗親總會	泰國盧氏宗親總會	泰國朱氏宗親總會
泰國侯氏宗親總會	泰國魏氏宗親總會	泰國方氏宗親總會
泰國姚氏宗親總會	泰國羅氏宗親總會	泰國鍾氏宗親總會
泰國洪氏宗親總會	泰國蘇氏宗親總會	泰國金氏宗親總會
泰國紀氏宗親總會	泰國蕭氏宗親總會	泰國賴氏宗親總會
泰國孫氏宗親總會	泰國陳氏宗親總會	泰國丁氏宗親總會
泰國連氏宗親總會	泰國黃氏宗親總會	泰國舜裔總會
泰國韋氏宗親總會	泰國邱氏宗親總會	泰國竜崗親義總會
泰國袁氏宗親總會	泰國謝氏宗親總會	泰國蕭叶鍾氏宗親總會
泰國翁氏宗親總會	泰國蔡氏宗親總會	泰國六桂堂宗親總會

泰国張氏宗親總會	泰国徐氏宗親總會	泰国何氏宗親會
泰国梁氏宗親總會	泰国翁氏宗親總會	泰国蟻氏族親會
泰国庄氏宗親總會	泰国歐陽氏宗親總會	泰国韓氏祖祠
古氏宗親總會	刁氏宗親總會	泰国海南各姓宗親聯誼會
竜氏宗親總會	合艾羅氏宗親會	泰国海南十三姓聯誼會
關氏宗親總會	宋卡府黃氏宗祠	泰国海南王氏宗親會
何盧江堂宗親總會	宋卡府黃氏宗親會	泰国邢武經社（海南）
泰国沈氏吳興發祥宗親總會	合艾林氏宗親會	泰京吳氏宗祠（海南）
泰国黃氏江夏慈善會	合艾林氏南山公會	泰国海南林氏宗祠
旅暹海南陳家社	宋卡陳氏宗親會	泰国海南梁氏宗親會
泰国揭陽古溪陳氏家族會	宋卡陳氏宗祠	旅暹海南陳家社
旅泰揭陽河內鄉王氏族親會	宋卡竜岡親義會	泰国符氏祖祠（海南）
呵叻蔡氏宗親會	合艾許氏宗親會	泰国海南張氏宗親會
清邁林氏宗親會	巴吞他尼府蘭室埠陳氏宗親會聯 絡處	泰国馮氏祖祠（海南）
泰南羅氏宗親會	泰国潮陽西岐鄉陳氏家族會	泰国雲氏大宗祠（海南）
泰国藍田黃氏宗親會	旅泰潮陽西岐鄉黃氏家族會	泰国韓氏祖祠（海南）
泰国藍田蔡氏宗親會	佛統吳氏宗親會	泰国海南李氏宗親會
泰国林氏宗親總會	呵叻府吳氏宗親會	泰国雲氏大宗祠（海南）
碧瑤林氏宗親會	合艾吳氏宗親會	旅泰上藍汀鄉鄭氏家族會
帕府林氏宗親會	清邁吳氏宗親會	泰国潮陽鶴聯鄉族親會
呈逸林氏宗親會	挽磨通吳氏宗親會	叻丕西河林氏宗親會
彭世洛林氏宗親會	泰国榕江穎川陳氏宗親會	旅暹普寧陳氏族親會

碧詩文林氏宗親會	泰南林氏宗祠	泰国黃氏宗親烏汶分會
披集林氏宗親會	旅泰潮陽港頭鄉劉氏家族會	呵叻鄭氏宗親會
竹攀杏林氏宗親會	旅泰澄海鳳嶺鄉劉氏家族會	旅泰潮陽華瑤鄉王氏族親會
北欖坡林氏宗親會	旅泰梅鼎張氏族親會	泰国普寧坵塘鄉王氏族誼會
猜納林氏宗親會	旅泰普寧斗文新寨族親會	旅泰惠來林氏家族聯誼會
海南林氏宗祠（泰京）	北欖坡林氏宗親會	旅泰揭陽賚泮鄉李氏聯誼社
南邦林氏宗親會	北欖坡鄭氏宗親會	泰国林氏翰學公總會
合艾李氏宗親會	北欖坡陳氏宗親會	泰国廖氏宗親會合艾聯絡處
旅泰王氏敏祖貢山族親會	北欖坡王氏宗親會	磷溪鄉（溪口）劉氏基金會
旅泰普寧貢山鄉王氏族親會	北欖坡劉氏宗親會	泰北黃氏宗親聯誼會
旅泰普寧貢山新厝陂仲祖公 族親會	呵叻姜呂邱宗親會	南邦黃氏宗親會
叻丕林氏宗親會	呵叻東北部域姜呂邱宗親會	清萊碧瑤黃氏宗親會
謝氏寶樹家族會	呵叻羅氏宗親聯絡處	清邁黃氏宗親聯誼社
旅泰潮陽華西鄉王氏公會	呵叻丁氏宗親聯絡處	清邁蔡氏宗親會
泰国黃氏宗親總會彭世洛聯 絡中心	呵叻余氏宗親聯絡處	清邁陳氏宗親會
佛丕郭氏宗親會	呵叻李氏宗親會	彭世洛黃氏聯絡中心
旅泰普寧洪山陳氏鄉親會	呵叻蔡氏宗親聯絡處	帕府黃氏聯絡中心
泰国林氏南山公總會	呵叻陳氏宗親會	泰国黃氏大宗祠理事會
泰国徐氏宗親總會合艾聯絡 處	呵叻張氏宗親會	陶公黃氏宗親會
旅泰睦叟祖王氏族親會	呵叻吳氏宗親會	也拉黃氏宗親會
	泰国許氏宗親會呵叻聯絡處	北大年黃氏宗親會
	泰国林氏宗親會呵叻聯絡處	佛統府劉氏宗親會

尖竹汶府張氏宗親會	泰國庄氏宗親會呵叻聯絡處	佛統楊氏宗親會
泰國潮陽谷饒鄉張氏宗族會	泰國丁氏宗親會呵叻聯絡處	旅泰潮陽簡朴李氏同鄉會
揭陽古溝鄉張氏族親會	泰國余氏宗親會呵叻聯絡處	陳氏宗親清邁聯絡處
旅泰普寧泥溝鄉張氏族親會	泰國鄭氏宗親會呵叻聯絡處	泰國黃氏觀音山鄉家族會
旅泰港頭鄉張氏家族總會	泰國黃氏宗親會呵叻聯絡中心	泰國佛統周氏汝南堂宗親會
龜仔厝府張氏宗親會	泰國鄭氏宗親會呵叻聯絡處	旅泰揭陽伯勞蒲鄉周氏家族會
旅泰埔仔寨張氏族親會（豐順）	泰國王氏宗親會呵叻聯絡處	泰國周氏南益公族親會
旅泰藍田張氏宗親會	彭世洛李氏宗親聯絡處	旅泰玉峽溪尾周氏同鄉會
新寮鄉張氏親族會	彭世洛黃氏宗親聯絡處	旅泰峽山鎮周氏家族會
叻丕府張氏宗親會	彭世洛陳氏宗親會	旅泰河披鄉周氏家族會
素輦府張氏總會聯絡處	彭世洛謝氏宗親聯絡處	旅泰橋西鄉周氏家族會
佛統府張氏宗親會	彭世洛許氏宗親聯絡處	旅泰橋東鄉周氏家族會
福建南靖德遠堂張氏宗祠	彭世洛林氏宗親聯絡處	旅泰東宅鄉周氏家族會
尖竹汶府張氏總會分會	彭世洛劉氏宗親聯絡處	旅泰西山鄉周氏家族會
隆城鄉張氏互助社	彭世洛徐氏宗親聯絡處	旅泰堂鄉周氏家族會
呵叻府黃氏宗親會	彭世洛張氏宗親聯絡處	泰國大溪李氏族親會
澄海夏塘鄉陳氏家族會	彭世洛王氏宗親聯絡處	旅泰藍田曾氏宗親會
泰國清萊碧瑤黃氏聯絡中心	彭世洛羅氏宗親聯絡處	旅泰臚溪上厝鄉吳氏家族會
旅泰普寧陳氏族親會	彭世洛蕭氏宗親聯絡處	泰國周氏南益公族親會
澄海外砂謝氏寶樹家族會	尖竹汶陳氏宗親會	信武里劉氏宗親會
洛坤黃氏宗親會	尖竹汶庄氏宗親會	鄔泰他尼府劉氏宗親會
清萊府黃氏宗親會	尖竹汶黃氏宗親會	披集府劉氏宗親會

泰北帕府柯氏宗親会	尖竹汶林氏宗親会	彭世洛府劉氏宗親会
烏汶陳氏宗親会	尖竹汶蔡氏宗親会	程逸府劉氏宗親会
泰京馬金紫堂	尖竹汶刁氏宗親会	佛統黃氏宗親会
挽武通吳氏宗親聯誼社	尖竹汶藍田曾氏宗親会	旅泰潮陽潮南区平湖西鄭氏 家族会
万磅曾氏宗親会	旅泰尖竹汶府李氏宗親会	泰国侯氏鴻江鄉族親会
北碧曾氏宗親会	素輦府林氏宗親会聯絡处	勿洞陳氏宗親会
素攀达叻曲曾氏宗親会	素輦府庄氏宗親会	泰国林氏宗親總會抱才攬分 会
泰南曾氏宗親会	素輦府張氏宗親会聯絡处	噠叻蒲隴西祠林氏宗親会
泰国客家廖氏聯誼会	素輦府周氏宗親会聯絡处	彭世洛陳氏宗親会
泰京南陽堂叶氏宗親会	素輦府陳氏宗親会聯絡处	泰国普寧月窟寨蔡氏族親会
泰国客属叶氏宗親会	叻丕府庄氏宗親会	旅泰興寧張氏宗親会
泰南李氏族親会	素輦府庄氏宗親会	旅泰金浦鄉族親会（鄭氏）
叻丕張氏宗親会	烏汶府庄氏宗親会	坤敬陳氏族親分会
泰南林氏宗祠	呵叻府庄氏宗親会	清萊張氏宗親聯誼会
旅泰涵江公李氏聯誼總會	吁隆府庄氏宗親会	佛丕許氏宗親会
旅泰潮陽大亨鄉族親会	武里喃黃氏宗親聯誼会	猜亦蓬許氏宗親会
旅泰澄海图濠鄉曾氏家族会	武里喃張氏宗親聯誼会	彭世洛許氏宗親会
旅泰普寧方氏奉先堂族親会	泰国黃氏宗親烏汶府分会	泰北十七府暨清邁吳氏宗親 聯誼会
旅泰泗華橋西鄉周氏家族会	泰国黃氏宗親總會素輦聯絡中心	叻丕府林氏宗親会
三礼育楊氏宗親会	泰国秋溪陳氏延華堂	旅泰陳氏逸士公總會
佛統楊氏宗親会	吁隆秋溪陳氏延華堂宗親会	
挽坑楊氏宗親会	清萊徐氏宗親聯絡处	

蘭室楊氏宗親會	清萊美塞徐氏宗親聯絡處	旅泰王氏恂德公族親會
佛丕楊氏宗親會	旅泰揭陽東園鄉林氏族親會	萬磅李氏宗親會
羅勇府李氏宗親會	清萊吳氏宗親會	紅塗吾沈氏祖祠理事會
旅泰梅縣李氏宗親會	泰國榕江穎川宗親會	泰京廣肇陳穎川堂
龜崗閩氏宗親會	旅泰揭陽桐坑鄉林氏族親聯誼會	泰國澄海南砂鄉親會
普寧新耘鄉陳氏宗親會		旅泰潮安東鳳鄉族親會
旅泰磷溪鄉劉氏家族會		

慈善性社團 (235 個)

明蓬佛教社	中華佛學研究社	北欖坡府同德善堂
泰國華僑互助社	泰國崇德善堂	新橋區菩提佛教社
泰國世覺善堂	泰國天華慈善醫院	清邁天福堂佛教社
泰華孤兒院	億甲邁本頭媽聯誼會	羅勇府明福善壇
華僑婦女養老院	大光佛教社	武里南府明禮善壇
華僑報德善堂	中華贈醫處	北標府明寶善壇
佛丕明典善壇	泰南十四府聯合救災機構	佛丕萍樂明典善壇
植基善堂	泰國德教慈善總會	大城府強華學校慈善會
北欖養老院	北大年同德善堂	大城府善德堂理事會
素輦集德善堂	北大年昭心善堂	大城府水尾聖娘理事會
清邁修德善堂	北大年林府姑娘善堂	北欖坡同德善堂
素叻揚德善堂	北大年賢德壇	北欖坡本頭公媽常年游神慈善會

素叻明妙善壇	介壽堂慈善會	北欖坡本頭公媽俱樂部
素叻那訕華僑慈善社	蘭室大峰公善堂	北欖坡瓊屬本頭公廟
素叻呈坎仁德善堂、	萬昌明萱善壇	北欖坡北空張天師公慈善會
素叻萬松福德善堂	泰京蓬萊五道閣	泰國光華佛教社
素叻紫素閣	泰京蓬華佛教社	呵叻華僑公學（教育慈善會）
泰國道德善堂	玄辰善堂	呵叻合盛壇壇
泰國同熙公會	美速全德善堂	彭世洛崇成善堂
羅勇府明福善壇	春蓬立德善堂	義德善壇
泰京挽卿菩提佛教社	春蓬府明聯總會	烏汶蓬萊十七道閣
暹羅揭陽會館挽卿養老院	春蓬明慧善壇	烏汶明華善壇
泰華婦女慈善會	春蓬攀通明園善壇	烏汶復德佛堂
泰京宏德善堂	春蓬明心善堂	烏汶慈善機構紫附閣互助社
合艾同聲德堂	春蓬同援埠明因善壇	泰國紫峰佛教社
合艾中華慈善院	春蓬明燈善壇	齊天宮念佛社（泰京）
合艾德教會紫南閣	春蓬明滿善壇	佛統養安善堂
合艾福德互助社	春蓬保福壇	佛統普元堂
合艾德善堂	春蓬紫峰佛學社	佛統本頭公仰道壇
合艾增尼或大聖廟	春蓬明德善壇	泰京義和念佛敬德社
合艾巴丁互助社	春蓬明慧佛教社；	泰國純陽會
合艾巴丁觀音廟	呵叻樂善善堂	北欖天德善堂
合艾巴丁老君廟	呵叻明仁善壇	高巴明雲善壇（攀牙府高巴貝）
合艾巴丁伯公廟	素輦大峰祖師廟慈善會	萬倫明妙仁心善堂

合艾石山觀音娘	泰京孔堤三福佛教社	叻丕府濟德善堂
合艾彌樂佛堂	泰國百姓慈善總會	泰京同德佛教社
合艾國光教育慈善基金會	勿洞慈善堂	泰南同倫宮亭佛教社善堂
合艾陶華中學慈善會	泰京華德念佛社	泰國武里喃府明禮善壇
合艾樂善聯誼會	叻丕新興壇	泰國崇德善堂慈善會
合艾親友聯誼會	叻丕府隆貞復興壇理事會	挽坡本頭公社仁德善堂
合艾廣蓬洞	董里萬德善堂	尖竹汶明義善壇
合艾慈善寺	武里南明禮善壇	泰國紫峰佛學社
合艾崇善堂	清萊美塞光明善堂	清邁觀音堂慈善基金會
北欖府明圓善壇理事會	呵叻佛善善堂蓬萊十九道閣	清邁天福堂佛教社
春府明慧佛教社	樂善善堂明仁善壇(呵叻府)	清邁五中山義德堂
北標府明寶善壇	曼谷明星善壇	清邁本頭公理事會
泰國竜華佛教社	呵叻華僑教育慈善會	清邁伊斯蘭協會
廊葵善堂(廊葵市)	呵叻城隍公理事會	清邁武廟理事會
巫蘭明正善壇	呵叻谷庄伯公理事會	清邁清華佛堂慈善會
泰華佛教社團聯合會	呵叻水尾聖娘理事會	清邁德教紫禪閣
泰國瑤寶亭念佛社	呵叻合盛壇	呵叻四球四德善堂
呵叻觀音慈善會	泰國蓬萊聯閣總會	清萊美塞光明善堂
帖色家明華善壇理事會	佛善善堂蓬萊十九道閣	清萊美庄本頭公公會
巴吞蘭室大峰公紫蘭閣	康月紫月閣	清萊攀善堂
抱才欖明真善壇	泰國德教會紫真閣	清萊明德善堂
景溪慈雲善堂理事會	泰國曼谷挽坑叻頌老壇	泰國明友慈善會
	佛統養安善堂、佛統普元	

泰京挽卿新橋菩提佛教社	堂、佛統本頭公仰道壇	烏隆慈德善堂
坤敬府存心善堂	泰京挽賜濟道佛堂	廊記十二道閣
坤敬集慧善壇	叻丕府濟德善堂	是拉差明燈善壇
呵叻素銀明光善壇	素輦府大眾慈善機構	南邦善堂
華富里府華德善堂	素輦府宋大峰祖師廟慈善	泰京壽光念佛社
黎逸府十八道閣	泰京天華慈善醫院	泰國京都淨德佛教社
區曼本頭公理事會	普吉善堂蓬萊十道閣	春府三德善堂
橫叻本頭公媽理事會	甲咪福德善堂十五道閣	泰京仙類本頭公慈善會
春武里紅詩拉道德天靈宮	洛坤大德善堂	龜城龜香古廟正中天佛閣理事會
理事會（哪吒三太子）	美塞光明善堂	泰國林氏天后宮理事會
噠叻蒲炎光大帝理事會	清萊網板善堂	泰國清邁水尾聖娘廟
空（口空）喧平安壇	勿洞觀音寺委員會	三立佛祖互助社
挽坡樂安社水尾聖娘廟	勿洞慈善堂	泰國暹羅代天宮
網賜正順馮洗聖娘廟	春府珍珠娘廟理事會	吞府空訕本頭公會
挽坡神廟聖娘噠叻	羅勇府清水祖師廟	黃橋天后宮
清邁芳泉本頭古廟	羅勇鄭皇公廟羅勇明福山庄	叻差拉新仙公宮建宮委員會
龜城大社龜江善堂	羅勇水尾聖娘廟	清萊美庄本頭公會
素叻府（萬倫）孔廟	羅勇蓬萊三道閣	坤敬本頭公媽理事會
耐冬之友慈善會	羅勇蓬萊七道閣	呵叻府福慶古廟
丁家駿慈善基金	羅勇明福善壇	呵叻府叻曼公廟常年酬神會
榕江慈善福利會	羅勇梹因閣	北欖大峰公新建廟委會
馬介軒（海柳）慈善會	泰國佛教眾明慈善聯誼會	羅勇萬禾佛本頭公廟理事會

泰国德教慈善總會		
----------	--	--

泰国德教慈善總會 (77 閣)：佛統紫統閣、博他侖紫蟠閣、北碧紫竜閣、烏汶紫聯閣、泰京紫同閣、泰京紫淨閣、合艾紫南閣、泰京紫吉閣、泰京紫景閣、泰景紫純閣、大城紫城閣、彭世洛紫崇閣、北汶浪紫文閣、黎逸紫逸閣、網板紫攀閣、春府紫峰閣、万沛紫沛閣、碧瑤紫正閣、北大年紫明閣、挽帕紫心閣、能知紫竜閣、南邦紫南閣、北標紫元閣、勿洞紫虹閣、廊沛紫沛閣、美塞紫光閣、泰京紫明閣、泰京紫修閣、景溪紫安閣、万沛紫光閣、泰京紫興閣、泰京紫天閣、蘭室紫蘭閣、春彭紫華閣、泰京紫宣閣、泰京紫微閣、泰京紫辰閣、莫拉限紫穆閣、；清萊紫清閣、泰京紫山閣、泰京紫真閣、晚興紫因閣、紅涂吾紫澄閣、博他耶紫平閣、坤敬紫心閣、景溪紫華閣、北欖紫宝閣、泰京紫竜閣、吞府紫崇閣、春彭紫青閣、春雅峰紫德閣、泰京紫玄閣、寮國素旺紫素閣、沙拉康紫善閣、廊磨喃蒲紫賢閣、胶拉信紫信閣、万沛紫燃閣、康月紫月閣、寮國百細紫瑤閣、沙敦紫敦閣、素叻紫素閣、是拉差紫飄閣、磨（三大）紫樂閣、清邁紫禪閣、洛坤紫坤閣、泰京紫太閣、仁廊紫銘閣、蘇梅島紫美閣、昌萊南屏紫仁閣、威限鈴紫金閣、新城紫劍閣、沙旺鈴隣紫輝閣、昌仁紫昌閣、寮國永珍紫珍閣、廊開德教會紫蓬閣、北欖德教會紫壽閣、难府德教會紫嵐閣；

泰国佛教衆明慈善聯誼會 (50 壇)：明灯善壇、明心善壇、明善善壇、明德善壇、明福善壇、明慧善壇、明因善壇、明果善壇、明滿善壇、明園善壇、明林善壇、明修善壇、明真善壇、明正善壇、明全善壇、明宣善壇、明化善壇、明仁善壇、明義善壇、明礼善壇、明美善壇、明華善壇、明智善壇、明信善壇、明賢善壇、明严善壇、明尊善壇、明聖善壇、明宝善壇、明典善壇、明道善壇、明倫善壇、明妙善壇、明烈善壇、明覺善壇、明寿善壇、明月善壇、明圓善壇、明光善壇、明輝善壇、明慈善壇、明吉善壇、明嶠善壇、明碧善壇、明音善壇、明鈴善壇、明峰善壇、明金善壇、明公善壇、明敬善壇；

業緣性社團 (101)

泰国制革廠公会	泰国影相商業公会	泰国客家工商委員會
中華總商会	泰国木業公会	泰国中華總商会暨各行業公会聯誼會
泰華進出口商会	暹羅五金公会	泰中促進投資貿易商会
泰国糖廠公会	泰国制革廠公会	泰国中医藥協會
泰国華商聯誼會	清邁中華商会	泰国中医總會
泰国海南商会	泰中旅游同業公会	

泰国客属商会	泰国工商總會	泰国聯華菓業公会
泰国福建商会	大城商会	羅勇甲策橡胶公会
泰国広肇商会	大城菓商聯誼会	羅勇曾里橡胶公会
泰国江浙滬總商会	大城金業聯誼会	泰国華僑工商聯合会
泰国台湾商会	大城聯友国菓社	泰国拉加邦台商聯誼会
泰南台商聯誼会	泰国佛統商会	北欖台商聯誼会
泰国華人青年商会	佛統火礮聯誼会	曼谷台商聯誼会
泰国聯華菓業公会	武里喃菓業公会	泰国木材出入口公会
泰国金银珠璇同業公会	清萊中華總商会	洛坤中華商会
泰国華人青年商会	清邁大小摩托車公会	坤敬府商会
泰国米商出口公会	清萊府中華商会	烏汶商会
泰国米業聯友会	暹羅銀信局公会	泰国袋業公会
泰国米業出口公会	泰国華商專業研修学员聯誼会	泰国織業公会
泰国青年企業家協會	泰国玉蜀黍土產公会	華僑派報業公会
泰国中華總商会暨各行業公会聯誼会	泰土產同業公会	泰国菓商聯誼会
泰国聯合紗布商公会	泰京木業公会	泰国會計法律公会
泰国皮業公会	公平菸業公会	泰国同熙公会
泰国紙商簿業公会	華瀛商会	塑料廠商公会
暹羅火鋸公会	泰国金商公会	華僑建筑公会
咖啡霜業公会	玻璃商公会	泰国古董藝術品公会
泰国堆棧業公会	火礮公会	服装工業公会
皮包出口公会	霜櫥同業公会	泰国五金工具協會

泰国皮報公会	泰国縫業公会	房地產公会
泰国商聯總會	泰国國際貿易商会	泰国制革公会
泰国印刷同業公会	泰国貨運公会	泰国鉄片制罐公会
泰国塑膠公会	泰国塑膠廠商公会	泰国土產福利公会
泰国文具辦公儀器公会	泰国化粧品廠商公会	泰国人造花公会
	泰国工業院家私公会	泰国橡膠公会

文化、學術、教育、余暇・娛樂等社團 (245)

泰華外丹功健康慈善總會	泰京孔堤興僑校友會	泰京三聘聯誼會
亦樂園晨運會	孔堤公學校友會	泰京孔堤碧竜宮互助社
泰国太極拳總會	合艾國光校友會	新城互助社
泰華書画盆景協會	泰京培中校友會	素叻華僑互助社
泰華內地記者協會	泰京培英校友會	泰京聯友互助籌委會
泰華通訊記者聯誼會	網銜健華學校校友會	北大年華僑互助社
泰華通訊記者協會	網銜健華學校教育促進會	泰京友誼互助社
曼谷華文日報僑團記者聯誼會	泰国東風同學會	泰国孔堤互益社
泰南華僑婦女會	泰国南中大同校友聯誼會	泰京孔堤聯誼會
泰華報人公益基金會	泰国中華中學校友會	泰京康樂友誼會
泰華婦女聯合會	春蓬宏華學校校友會	泰京沙儲聯友社
泰国華文教師公會	合艾華文報記者聯誼會	泰京嗎哈默長福父母會
泰国偷閑聯歡社	合艾盛通中學校友會	泰京谷庄華友聯誼會
泰華僑團總幹事聯誼會	泰国留學中國大學校友總會	叻丕府樂聲聯誼社

合艾社團總干事聯誼會	烏汶華僑公學校友會	叻丕新興互助社
泰國勿洞旅京婦女聯誼會	廈門大學泰國校友會	呵叻麟聲聯友互助社
中華婦女聯合會泰國分會	華僑大學泰國校友會	呵叻三一友好聯誼社
彭世洛客家婦女會	泰國北京大學校友聯誼會	呵叻華僑華人聯合會
泰國廣肇婦女委員會	彭世洛府醒民學校校友會	泰京呵叻友誼聯誼社
泰南勿洞廣肇婦委會	羅勇府培光校友會	呵叻十五之廿五聯誼社
泰京廣西婦女會	萃英夜校同學會	呵叻佛善婦女會
泰京勿洞旅京婦女聯誼會	佛統培文培光校友會	呵叻披益密婦女會
佛丕光友教育促進會	旅泰聿懷中學（三中）校友會	泰國水門裊他聯誼會
龜仔厝華教促進公會	旅泰普寧一中校友會	挽坑友誼公會
泰國客家文藝聯誼會	旅泰普師校友會	泰京老嚙叻互助社
客家文藝會	泰京廣肇校友會	泰京和睦友誼會
泰京國風公會	呵叻華校校友會	泰京三聘仁義友誼互助社
佛丕國風公益社	清邁八華校校友會	紅塗路嚙叻是本頭公互助社
新聲音樂文藝協會	勿洞中華校友會	泰京然那哇一德互助社
彭世洛彭華國樂社	旅泰普寧興文中學校友會	泰京然那哇二德互助社
清邁華僑國樂社	旅泰澄海蘇北中學校友會	呵叻麟聲聯友互助社
坤敬國樂社	中華函授學校泰國同學聯誼會	泰京帕夫叻互助社
洛坤絲竹聯誼會	佛佛統府培文培光校友會	泰京榮興互助社
清邁華僑國樂社	佛統府公立華益校友會	覺民強華校友會
朱拉晨運友誼會	泰京育才校友會	坤敬團民書報社
是樂園太極氣功操健身會	泰京進德校友會	坤敬書報社

是樂園大眾太極健身會	万象致中校友會	大城府泰中友好協會
是樂園園湖聯誼會	旅泰揭西鼎灰寨第四華僑中學基金會	大城府三民書報社
是樂園晨運會	旅泰澄海中學校友會	大城吡叻社理事會
沙敦太極拉悟健身會	旅泰潮陽礪青中學校友會	大城越巴塞社理事會
泰國十全健身總會	泰國留台同學總會	大城車頭社理事會
泰國萬年青健身聯誼會	旅泰梅州中學校友會	大城吡唵社理事會
泰國太極拳總會	旅泰育僑僑中校友聯誼會	大城火車站社理事會
春府太極拳聯誼會	吞府中山校友會	大城府水尾聖娘理事會
春府泰中太極拳聯誼會	洛坤光華校友會	大城府北欖口社理事會
春府同心太極拳聯誼會	新民新學校校友會	會權育寬本頭公互助社
佛教城興興晨運會	泰國黃埔校友會	泰京愛友互益社
洛坤太極拳聯誼社	叻丕培德校友會	泰京和興聯誼會
曼谷永年楊式太極拳學會	泰國留台華文教師聯誼會	磨大（三大）互助社
宋艾歌樂世友太極拳學會	清邁崇華新生華立基金會	磨大（三大）教育促進會
吁隆府太極拳學會	南邦育華教育慈善基金會	晨光友誼會
北欖坡同德善堂太極拳學會	合艾國光學校教育慈善會	四枋廠玄友聯誼社
觀音自在功協會	僑英教育基金會	萬福倫弼互助社
泰國弘易學會	醒華學校校友會	泰國客家福利委員會
泰中學會	泰南曾里振華教育基金會	泰京披耶皆互助社
泰華詩學社	烏汶華僑公學校友會	挽甲必幸必寧玄天上帝廟互助社
泰國中醫藥學會	坤敬公立華僑學校校友會	武叻拉納本頭公聯誼社
泰國華文作家協會	洛坤光華校友會	泰京挽叻聯誼社

泰中藝術家聯合會	中華函授學校泰國同學會	泰京挽賜互助社
泰國音樂文藝協會	啟光公學校友聯誼會	泰京早都作公園晨運壽星聯誼會
泰國中山學會	彭世洛醒民校友會	泰國寮華聯誼會
泰國東方藝術聯合會	泰國永珍寮都校友會	叻武拉納本頭公聯誼社
交際講話藝術學會	泰國曼谷鍾靈校友聯絡中心	頓三廊永安六社聯誼會
梅林基金會	佛丕光中公學校董會	曼谷派報聯誼會
梅松文化基金會	竜厝仔三才公學校董會	他麟鈴互益社
高麗參當歸汁慈善基金會	佛統府公立華益學校校董會	挽坑友誼公會
素叻客家懇親大會基金會	泰國華文民校協會	泰京空贊互助社
泰中文化經濟協會	董里華僑教育會	泰京空贊天后聖母互助社
泰中友好協會	泰華文化教育基金會	泰國康寧聯誼會
泰中友好協會彭城分會	泰京空贊僑德公學基金會	北欖溪西聯誼社
泰中藝術家聯合會	巴吞他尼府民校教育聯誼會	永生康樂會
呵叻泰中友好協會	泰北華校聯誼會	普樂聯誼會
呵叻泰中文化交流促進會	素叻府僑團聯合會	彭世洛華僑協會
呵叻華僑華人聯合會	合艾僑團聯合會	素叻僑團聯合會
烏汶泰中友好協會	泰京長和互助社	合艾僑團聯合會
素叻十七僑團聯合會	泰京普樂聯誼會	佛丕華僑公會
泰中友好協會彭城分會	泰京億慶成聯誼會	北欖坡中華公會
泰國客家總會榮譽首長聯誼會	泰京披耶皆公會	彭世洛華僑協會
泰國客家總會暨客屬社團首長聯誼會	叻丕府僑團聯合機構	泰國華夏協會
泰國中國和平統一促進會	佛丕七僑團機構理事會	呵叻華人華僑聯合會

	宋卡僑團聯合會	董里華僑公會 曾里華僑公會 碧瑤公會
--	---------	--------------------------